

## 町民活動団体紹介 26

### より良い地域づくりのため活動をしている団体を紹介しします

#### 団体名 野木町 ICT地域活性プロジェクト

◆活動内容 ICT機器（パソコン、タブレット、スマホ）を使用しての町民同士の交流の場や学びの場を提供しています。例えば、オンライン会議システムの使い方講座や、オンラインイベントの主催を行っています。また、リアルとオンラインのハイブリッド形式での講演会のサポートも行っています。

◆活動日 不定期

◆活動場所 インターネット環境が整った場所（主に各自の自宅）

◆会員数 7名

◆ひとこと オンラインだからこそできることが沢山あります。新しい形での地域活性化を町民の皆さんと一緒に考えながら、町の魅力を再発見していきませんか。



町民活動とは、営利を目的とせず、社会的な課題の解決に向けて町民が主体となって行う社会貢献活動のことです。

・当団体については……問鶴岡 学 ☎ 090(6043)4935

みなさんも楽しく、元気に町民活動、ボランティア活動に取り組んでみませんか。ご興味のある方は、ボランティア支援センターきらり館まで、お気軽にお問い合わせください。

・町民活動等については…問ボランティア支援センターきらり館 ☎ 0280(23)1231

## 広報連絡委員レポート №.421



### 新型コロナウイルスの小さな影響

広報連絡委員 小林 幹子

急にマスクが手に入らなくなった頃から、1年以上がたちましたが、まだしばらくはマスクをつけなければならない日々が続きそうですね。

私のこの1年の身近な影響としては、野木町の（娘の）成人式が中止になったこと、息子の卒業式が保護者入場不可になったことでした。とても残念でした。そして地域の行事では、毎年2月に行われている「十九夜講」が今年はお参りのみ、ということがありました。

「十九夜講」とは、「野木町史 民族編」によると出産の無事を十九夜観音に祈願する女たちの集まりといえます。私の住む若林1では、毎年班単位で当番になり、お寿司・お茶菓子等を買ってきて、50人分位のお味噌汁を作ります。集落センターにお昼に集まり、「十九夜講」が始まります。掛け軸にお参りをし、昼食をとりながらの交流の場となっていました。時代の流れで今年からお参り後は外食の予定でしたが、どちらにせよ大勢で

テーブルを囲んでの食事はコロナ禍ではできません。

集落センターのわきには、屋根付きで総高177センチの「十九夜塔」があります。そこには小さな僧侶墓石も含め全部で30基の石塔があるようですが、そのうち「十九夜塔」は4基、最も古いものは1740年造立でした。毎年12月には家の主人たちが集まる「庚申講」もあるのですが、そちらも去年は簡素化されました。その「庚申塔」は5基あり、1680年から60年おきに庚申の年に1860年造立のものまでありました。近くに住みながら、気にも留めなかった石塔に目を向けたのも新型コロナウイルスの影響でした。

※石塔については、尾島忠信氏の「野木町若林地区調査報告」を参考にしています。

